

## 技術委員からの追加意見等及び事業者の見解

	区分	委員名	追加意見	事業者の見解
1	4-2、3 騒音、振動	塩田	<p>・準備書の394ページ、表4-3-12（1）および（2）に記載している「振動パワーレベル」は、誤りではないか。「振動パワーレベル」ではなく、「振動レベル」と思うが、ご確認願いたい。</p> <p>・準備書396～397ページの図4-3-4（1）、（2）及び409ページの図4-3-11に記載している「寄与レベル予測結果の振動レベルコンター」は、どのコンピュータシミュレーションソフトを利用しているのか。コンターが、同心円になるのは、考えられないが。</p> <p>・準備書420ページの表4-4-9「低周波音発生機器の防振対策」に関して、防振ゴムは振動遮断用であり、低周波数領域の空気音に対しては効果が無いため、下記のように修正する方が的確と思えるが。 *環境保全措置の内容：タービン・・・については、低周波音用消音器や防振ゴムの設置等により対策を行う。（低周波音用消音器の追加）</p> <p>・予測値の表現方法についての意見 騒音、振動および低周波音の予測結果を小数点表示になっているが、重要な意味があるか。対象は、「人間の聴覚、人体への振動」であり、小数点はそれらの影響を反映するか。 危険側を前提に表現しているとの説明があったが、基本姿勢として危険側を表示するのであれば、小数点は全て切り上げるなど、正数値で表現する方が良いのではないかと。</p>	<p>・評価書において修正したものを記載します。</p> <p>・振動予測計算は、Microsoft Excel 2003を用いて振動の距離減衰式により行い、その計算結果を図化ソフトGraph-R（(株)スカイコーポレーション）で等振動線図を作成しました。予測式の内部減衰係数は、一律、未固結地盤（ローム、シルト、粘土質、砂礫質）の0.01を設定し、幾つかの振動源が同時稼働する条件をもとに算出しています。予測結果としては、最も振動レベルが高い建設機械、焼却施設の設備からの振動の影響を受けたため、同心円状に近いものとなっております。</p> <p>・評価書において適切な表現にしたものを記載します。</p> <p>・事業実施による増加量が1未満の場合が多く、その僅かな差を示す意図で、小数点以下1桁の数値まで示しております。評価書においては、予測値の数値の桁の表記について、危険側の予測を考慮する観点から、小数点以下1桁を切り上げた整数表記に修正いたします。</p>

	区分	委員名	追加意見	事業者の見解
2	4-7 水象	富樫	<p>【第1回技術委員会 資料5】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・準備書476ページの図4-7-3(1)の各地点の水位関係を見る限りでは、犀川の堤外地から堤内地方方向に流れる地下水流向が想定できる。489ページの(5)予測結果にある「地下水位の傾き」の記述は、誤った地下水流向の解釈につながる表現であるため、修正をしていただきたい。</li> <li>また流向は環境影響の面で重要な情報なので、想定される流向については図示することが望ましい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再確認をしたところ、地下水の流向は、犀川堤防から市街地への流向（南から北方向）及び犀川の流下方向に沿った流向（西から東方向）と想定されます。地下水の流向については、評価書において図化し記載いたします。</li> </ul>
3	4-7 水象 4-9 地盤沈下	富樫	<p>【第1回技術委員会 資料5】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・準備書485ページの図4-7-9並びに文章中において、掘削工事中の周辺地下水位低下の予測では、径300mmの揚水井1本による影響圏を計算しているが、複数本の揚水井を設置しなくても施工できるという計画なのか。</li> <li>もし複数本の揚水井を設置する必要があるとすれば、実態に合う条件で予測をする必要がある。</li> <li>・484、489及び510ページにある透水係数の単位表記がそれぞれ異なるので、そろえて表記してください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詳細設計が決まった段階において、再度、影響予測を行い検証してまいります。</li> <li>・評価書において、修正したものを記載します。</li> </ul>
4	4-9 地盤沈下	富樫	<p>【第1回技術委員会 資料5】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・準備書511ページ並びに表4-9-4に記載されている「流動化物を採取しない揚水方法」について、より具体的に例示していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詳細設計が決まった段階で、揚水量、帯水層の土砂粒径等に応じた粒度のフィルターを選定し、流動化物の採取を防止します。</li> </ul>
5	4-10 植物	佐藤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物リストについて、名前と帰化・危惧のみでなく、植物の分布（北方系・南方系・山地性・低地性）などを整理されるとその地域の特性が浮き彫りになるのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の植物調査は、建設候補地及びその周辺に生育する植物の概況を把握する目的で実施したもので、地域の特性などを整理するものでないことから、ご指摘の北方系等の分布につきましては、省略させていただきました。</li> </ul>
6	4-11 動物	中村 (雅)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・569ページの表4-11-8の分類ですが、ミシシippアカミミガメはイシガメ科ではなくヌマガメ科ではないかと。</li> <li>またその下のイシガメは、正式名称はニホンイシガメでは。</li> <li>・576ページの表4-11-15のヤマセミ、カワセミについてはブッポウソウ科ではなく、カワセミ科では。P. 583の表4-11-24も同様に確認願いたい。</li> <li>・596ページの表4-11-27のカジカはアカザ科ではなくカジカ科の間違いでは。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価書において修正したものを記載します。</li> <li>・評価書において修正したものを記載します。</li> <li>・評価書において修正したものを記載します。</li> </ul>